

主題	A様の胃ろうから経口摂取完全移行への取り組みを通じて。
副題	ご本人、ご家族の願いを叶えるために。
ニーズ	他職種との連携

研究期間	13ヶ月	事業所	社会福祉法人 泉陽会 第二光陽苑
発表者：四村 祐貴	アドバイザー：		
共同研究者：2階北ユニット職員・看護師・相談員・ケアマネジャー			

電話	03-5991-9917	メール	dai2kouyouen@mx5.ttcn.ne.jp
FAX	03-5991-9918	URL	http://www.timelyhit.ne.jp/senyou

今回発表の事業所やサービスの紹介	社会福祉法人泉陽会を母体とする特別養護老人ホーム第二光陽苑は、平成11年4月に設立した特養80床・ショートステイ30床の従来型特養である。平成16年度よりユニットケアを導入している。2階北ユニットは特養27床、ショートステイ8床のユニットとなっている。特徴として軽・中度の認知症の方や要介護度の高い方が混在している。平均介護度3.7である。
------------------	--

《1. 研究前の状況と課題》

対象者：A様 74歳 女性 介護度4

平成23年7月入所。

食事：粥・刻み自己摂取。

平成23年8・9月

両肺の誤嚥性肺炎の為、2度入院される。

平成23年10月

入院中、経口摂取不良の為、胃瘻造設となる。

平成23年12月退院される。

予後良好の為、A様から「美味しいものが食べたい」、ご家族から「出来る範囲で経口摂取が行えるようにしてほしい」と希望が聞かれていた。ただ、2回誤嚥性肺炎を起こしている為、なかなか経口摂取に取り組みずいた。

実施するにあたり、経口摂取移行方法の知識・技術の取得、誤嚥性肺炎の知識・予防方法の理解、職員間の統一したケア方法の確立の3つの課題が上がった。

《2. 研究の目標と期待する成果・目的》

A様やご家族の希望として上がっている、経口摂取が出来るようになることを目標とし、以下のことを期待する成果として経口摂取移行に取り組んだ。

- ・A様がトラブル無く経口摂取が出来るようになる。
- ・口腔機能の向上と共に誤嚥性肺炎のリスクを軽減できる。
- ・食事に関する楽しみがもてる。
- ・経口摂取により、健康的な生活が送れるようになる。
- ・取り組みを通して、職員と各職種間が連携しながらより質の高い統一したケアが行えるようになる。

《3. 具体的な取り組みの内容》

平成24年3月 嚥下内視鏡検査。半固形物であれば摂取可能。職員間で、誤嚥性肺炎の予防方法・介助方法を学び、口腔ケアを徹底し、口腔機能の維持・回復等を目指す。

平成24年6月 内視鏡検査で現状を確認する。食事摂取可能。看護師介助にて昼食のみ「粥・ソフト食」で経口摂取開始。

平成24年7月 食事介助を看護師指導のもと介護士で行う。嚥下良好の為、朝食も開始する。

平成24年8月・9月 摂取良好で食事量も安定。3食経口摂取へ移行する為、ケース会議を開き、他職種含め協議する。留意点等を再確認した上で開始となる。食事量と水分量をチェックし、他職種含め評価行う。

平成24年10月・11月 嚥下機能も向上し、食事・水分量ともに摂取良好。A様、ご家族より食事形態向上の希望が聞かれた。

平成24年12月・平成25年1月 自己摂取希望あり、他職種含め協議行う。見守りのもと自己摂取開始。摂取良好。

平成25年2月 歯科医師より嚥下良好の診断。食事形態を「米飯・刻み食」へ変更。また、義歯があれば常食も可能と診断され義歯作成を行う。

平成25年4月 義歯完成。食事形態を「米飯・常菜」へ変更。また、A様・ご家族の希望により胃瘻の抜去を行う。

《4. 取り組みの結果と考察》

A様、ご家族の希望であった「経口摂取」、さらには「食事形態の向上」「胃瘻の抜去」も実現する結果となった。活気も出て、体重も取り組み開始時から約7kg増となっている。笑顔が増え、A様より食事を楽しまれている言葉も聞かれている。

取り組みにあたり、職員間と他職種との連携、情報共有等必要な事が多くあり、時間がかかる事でご家族が進捗状況について心配されることもあったが、細かく確認を行ったことにより、今現在まで事故なく安心して過ごされている。

担当・リーダー・ケアマネが中心となり、全職員にきちんと説明することで、知識技術の向上・ケアの徹底ができた。また、報告・連絡・相談を確実に行うことが他職種との連携に繋がった。

A様の「食べたい」という気持ち、ご家族の意欲的な姿勢、職員が協力して取り組めたことが結果に繋がったといえる。

《5. まとめ、結論》

取り組みを通じて、ご利用者・ご家族の願いを叶えるため、職員にはそれに見合う姿勢や能力が必要であることを学んだ。また、知識を持ち、計画・実行・確認・評価を常に行い、情報共有しながら、根拠を持って対応することの必要性を改めて理解した。しかし、これで満足することなく今後更なる向上が必要である。これからも、ご利用者・ご家族の願いを叶えていけるような援助を行いたい。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

この研究発表を行うにあたり、ご本人・ご家族、本研究発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことについて説明し、同意を得ている。

《7. 参考文献》

なし。

《8. 提案と発信》

経口摂取には様々な利点がある。食べることはエネルギーを取り入れるという目的だけの行為ではなく、口で噛む、匂いの刺激を受ける、味を感じる、見た目を楽しむ、食べるための動作を含め「人としての当たり前な行為」であり、同時に楽しみであり、癒しにもつながる行為であり生きていく上で、とても重要な事である。

【メモ欄】